

## 『近代女性雑誌コーパス』の概要

田中牧郎

### 1. はじめに

「20世紀初期総合雑誌コーパス」の中心を占める『太陽コーパス』の比較資料として、『近代女性雑誌コーパス』を作成することとした。予算と人力を考慮し、300万字程度の規模で、『太陽コーパス』と比較できるものとするを旨とした。

総合雑誌『太陽』は、田中(2005)で詳しく記したように、この時期の日本語を代表できる雑誌の筆頭にあげられる。しかし、『太陽』の限界のひとつとして、読者が「中学生から壮年層にわたる全国的な中産層」であったことがあげられ、この読者層から外れる人々が読んでいた書き言葉をカバーする資料の整備が望まれよう。読者という点から、『太陽』と補い合う位置にあり、一群をなす雑誌として、女性向け雑誌、子ども向け雑誌などといった対象が考えられるが、まずは、女性を読者に想定するものを対象とすることとした。

『太陽コーパス』が対象とした、1895(明治28)年、1901(明治34)年、1909(明治42)年、1917(大正6)年、1925(大正14)年の各年について、これと対比できる資料をコーパス化することが理想的だが、総量300万字規模であっても各年次の共時的な実態を把握できる分量として、各年100万字規模と定め、1895年、1909年、1925年の三つの時点にしばることとした。

国立国語研究所国語辞典編集準備室(1983)は、現代語の用例辞典編集のための、用例採集対象文献を選定する作業を、有識者10名による投票で行っているが、投票の得点の高い(7点以上)女性雑誌は、次のものである。

『婦人公論』(1914～)	10点
『主婦之友』(1916～)	9点
『女学世界』(1901～)	9点
『少女倶楽部』(1915～)	8点
『家庭女学講義』(1903～)	7点
『婦人倶楽部』(1919～)	7点

また、永嶺(1997)は、戦前に実施された、女性を対象とする様々な読書調査のデータを集めて整理しているが、今回対象とする3つの時点のうち、1909年と1925年については、近い時点の調査結果が示されている。各調査における上位5誌を抜き書きして示すと、次の通りである。

( )内は調査地点である。雑誌名ではない回答(「婦人雑誌」など)は除き、5誌に満たない場合は、回答の全てを掲げている。

#### ○1909年に近い時点

##### 女学生

1914年頃調査(東京) 少女世界, 少女の友, 女学世界, 婦人世界, 婦人画報

1914年頃調査(東京) 女学世界, 婦人世界, 少女の友, 少女世界, 女子文壇

#### ○1925年に近い時点

##### 女工

1921年調査（東京） 婦人世界 主婦の友 婦女界 少女世界 少女の友  
 1927年頃調査（姫路） 少女クラブ キング 少女の友  
 1927年調査（東京） キング 泉の花 少女倶楽部 まどみ

#### 職業婦人

1924年調査（名古屋） 主婦の友 婦女界 婦人公論 婦人倶楽部 婦人世界  
 1926年調査（広島） 婦女界 主婦の友 キング 婦人公論 婦人倶楽部  
 1926年調査（京都） 婦女界 主婦の友 キング 婦人倶楽部 婦人公論

#### 女学生

1931年頃調査（東京） 少女倶楽部 少女の友 キング 少年倶楽部 婦人倶楽部

1909年に近いところでは、女学生対象の調査しかないが、『少女世界』『少女の友』などの少女雑誌のほかでは、『女学世界』がもっともよく読まれていると見られる。

1925年に近いところでは、調査時期にやや幅ができるが、女工、職業婦人、女学生のいずれも調査がある。少女雑誌以外では、女工では『婦人世界』『婦女界』『主婦の友』、職業婦人では『主婦の友』『婦女界』『婦人公論』『婦人倶楽部』、女学生では『婦人倶楽部』といった雑誌がよく読まれていたことがわかる。成人や学生が読んでいた『太陽』と比較する対象としては、職業婦人や女学生が読んでいた雑誌が適切だと考えられるので、『婦人倶楽部』『主婦の友』が候補に挙げられよう（『主婦の友』は女学生対象の調査では上位5誌に入っていないものの、6位に入る）。

有識者による用例採集文献の選定結果、読書調査の結果との両方に共通する、1909年と1925年の女性雑誌で、少女向けのものを除くと、次のものに絞り込まれる。

1909年：女学世界

1925年：主婦の友 婦人倶楽部

1909年は『女学世界』を対象とすることで、問題ないであろう。2誌の候補が考えられる1925年は、国立国会図書館のマイクロ資料からの複写が困難でなかった『婦人倶楽部』を対象とすることとした。

なお、1895年は、この時期の女性雑誌は『女学雑誌』一誌に限られるため、『女学雑誌』を対象とした。

## 2. コーパスとする範囲について

以上のようにしてコーパス化の対象に定めた三つの時点の三種の女性雑誌について、各年次が、100万字程度になることを目指して冊数を調整し、作業を進めた。対象に定めた号は、次の通りである。

### ○1895年 『女学雑誌』

1895年刊行分すべて。この年の号だけでは、100万字に満たないので、ほぼ100万字となるまで、1894年分を足し込んだ。

1895年1号～12号 1894年27号～45号

### ○1909年 『女学世界』

1909年刊行分を隔月で6冊（臨時増刊除く）。

1909年3号，5号，8号，10号，13号，16号

### ○1925年 『婦人倶楽部』

1925年刊行分を、適宜間隔を開けて3冊。

1925年3号, 6号, 12号

なお、1909年と1925年については、記事の原著者が没後50年を経過していない可能性のある記事を、公開時に除外するため、公開できるデータ量は以下の通りとなる。

1894年・1895年 996,897字

1909年 679,551字

1925年 463,128字

こうした、著作権の事情から公開できない部分が生じる問題は、『太陽コーパス』の公開（2005年）の場合にも生じたものであり、今後コーパスを構築する場合には、設計に着手する段階から、何らかの手立てを工夫することが望まれよう。

『近代女性雑誌コーパス』の全体と、それと対応する『太陽コーパス』の年次について、その分量（文字数）を比較すると、図1・図2の通りである。

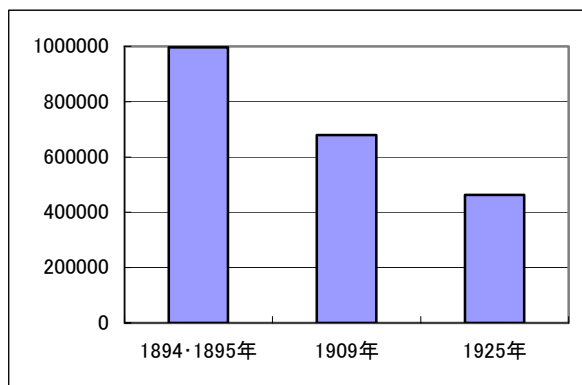


図1 『近代女性雑誌コーパス』の年次別文字数

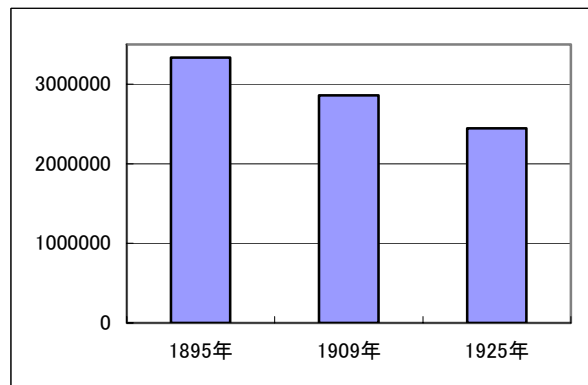


図2 『太陽コーパス』の年次別文字数

『近代女性雑誌コーパス』の場合、『太陽コーパス』の場合以上に、年次の進行によるコーパスの分量の低下が著しい。これは、『太陽』に比べて、女性雑誌の場合は、著名人でない著者が多く、没年の調べがつかない場合が多いことによるものである。こうした、コーパスにおける量のバランスの悪さは、特に、経年的な推移を、頻度の多寡によって見ようとする場合など、単純な使用回数だけで比較することを難しくするものであり、コーパスを利用する際に、何らかの工夫を行うことが求められる部分である。

### 3. 『近代女性雑誌コーパス』の概要

『近代女性雑誌コーパス』の構造化とタグ付けの方法は、全面的に『太陽コーパス』を踏襲した。その具体的方法は、田中（2005）を参照してほしい。

構造化タグのうち、コーパスの最も基本的な単位となる記事タグに記した属性によってとらえられる『近代女性雑誌コーパス』の概要を、『太陽コーパス』と比較しつつ簡単に記したい。

### 3. 1 著者の概要

『近代女性雑誌コーパス』における、記名のある著者は484人であるが、このうちの多くは、姓または名的一方しか記されなかったり、筆名もしくは変名と考えられ、著者を同定できないものである。著者の実体が具体的に同定できるのは、115人であり、その生年の分布は、次の通りである。

表1 『近代女性雑誌コーパス』における著者の生年

1800年以前	7人
1800-1810	0人
1811-1820	0人
1821-1830	1人
1831-1840	3人
1841-1850	6人
1851-1860	12人
1861-1870	35人
1871-1880	29人
1881-1890	15人
1891-1900	6人
1901-1910	1人
合計	115人

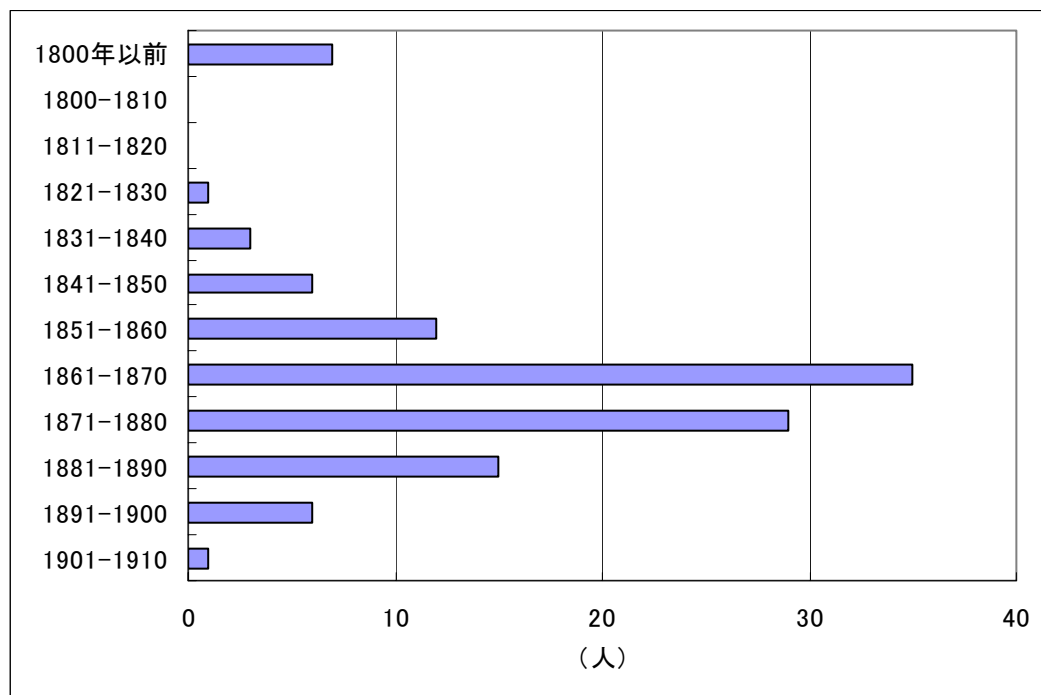


図3 『近代女性雑誌コーパス』の著者生年の構成

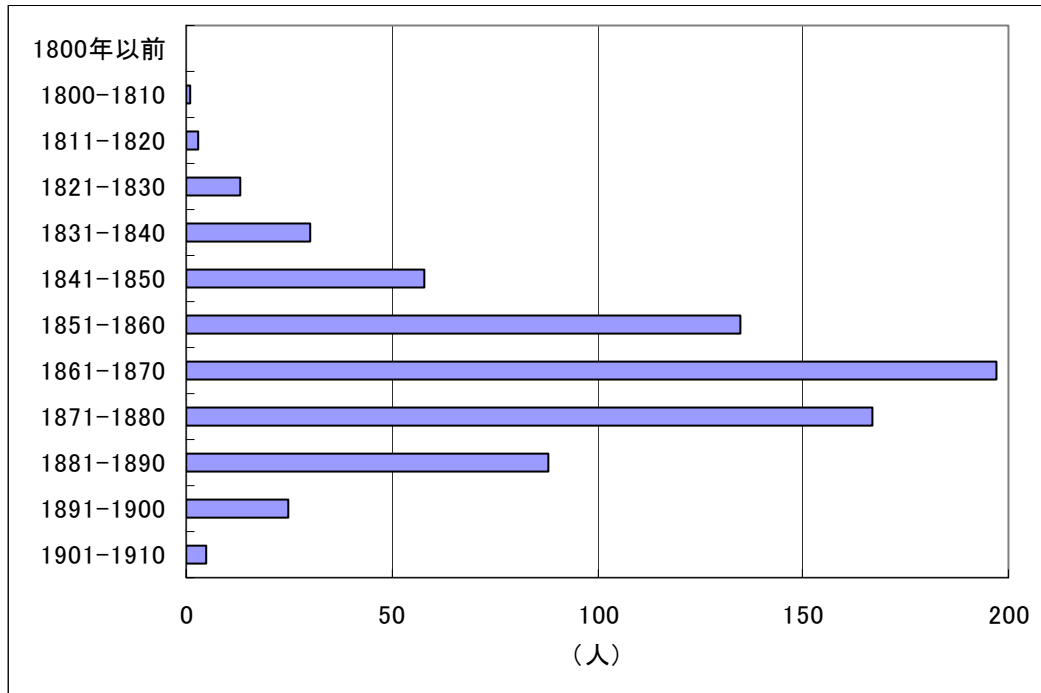


図4 『太陽コーパス』の著者生年の構成

1800年以前の著者とは、徳川家康、中江藤樹、与謝蕪村、加舎白雄、上杉鷹山、松平定信、小林一茶の7人であり、いずれも歴史上の人物で、言わば古典として、雑誌に収録された文章であると考えられる。これらを除けば、おおむね、19世紀生まれの人物で構成され、中でも、19世紀後半の人物が多い、ということが出来る。『太陽コーパス』の著者の生年構成と比較するグラフを作成してみると、図3・図4の通りである。グラフの形状はよく似ており、著者の生年の点では、二つのコーパスは、ほぼ重なると見てよいと考えられる。

### 3. 2 ジャンルの概要

『近代女性雑誌コーパス』では、記事タグにジャンル属性を付与している。この属性は、日本十進分類法(NDC)にしたがって、記事単位で付与している。各年次別に、その文字数を算出し、その結果を一覧にすると、表2の通りである。表2をもとに、全体に占める比率を算出し、グラフに示したものが、図5である。図6は、『太陽コーパス』における対応する年次のジャンル比率である。

『近代女性雑誌コーパス』の場合、年次によって、ジャンル構成に大きな出入りがあることに注意が必要である。1894・1895年では、「哲学」の占める比率が高いこと、1925年では「文学」が圧倒的多数を占めることが、目立った特徴として指摘できる。また、1894・1895年と1909年で高い比率を占めていた「社会科学」が、1925年では著しく後退していることも注意される。

『太陽コーパス』の場合(図6。この場合、記事数で比率を算出してある)と比較しても、『近代女性雑誌コーパス』の年次によるジャンル構成の変動の大きさは際立っている。この点は、『太陽コーパス』の比較対象として『近代女性雑誌コーパス』を利用する際に、留意しておかなくて

はならない点である。

表2 『近代女性雑誌コーパス』のジャンル構成（文字数による）

	1894年 1895年	1909年	1925年	全体
0 総記	21640	19154	6940	47734
1 哲学	288068	20334	30752	339154
2 歴史	36139	105671	8743	150553
3 社会科学	337632	210263	38337	586232
4 自然科学	25909	24686	25634	76229
5 技術	3922	70554	34841	109317
6 産業	6239	28075	278	34592
7 芸術	43090	12569	21493	77152
8 言語	3295	0	671	3966
9 文学	230106	188245	295439	713790
計	996040	679551	463128	2138719

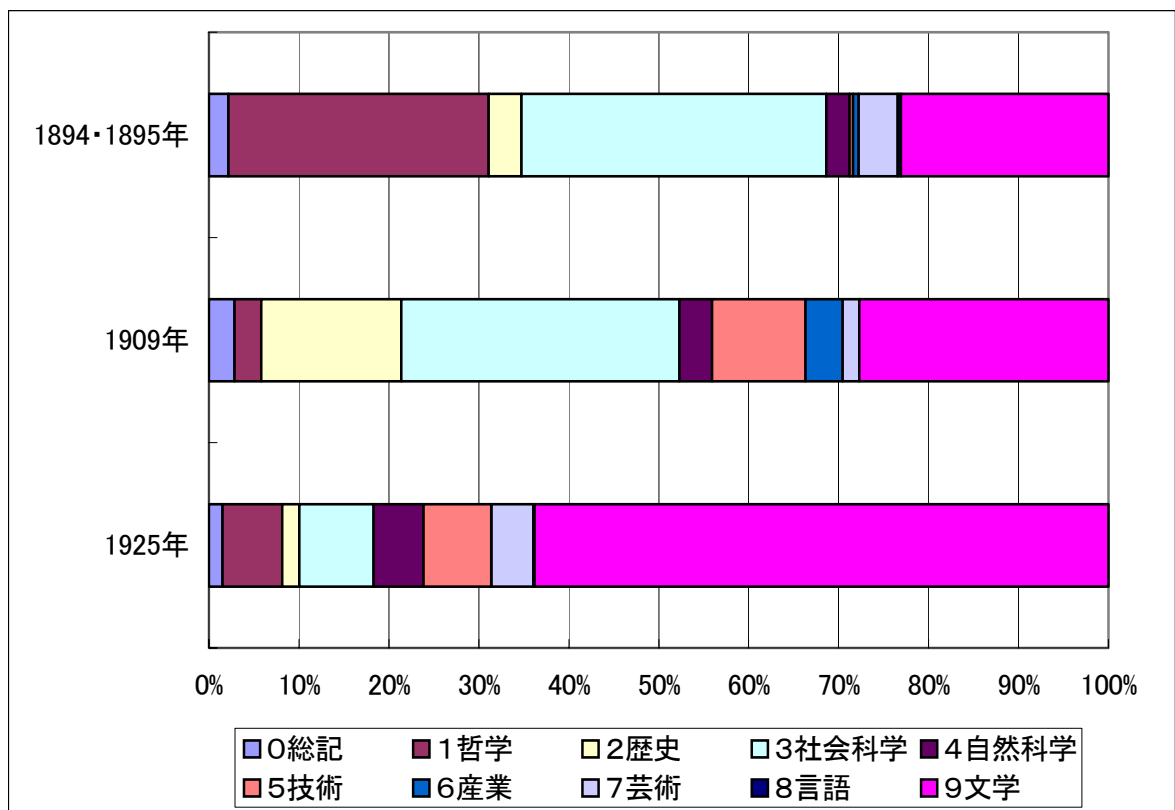


図5 『近代女性雑誌コーパス』における記事のジャンル（文字数による）

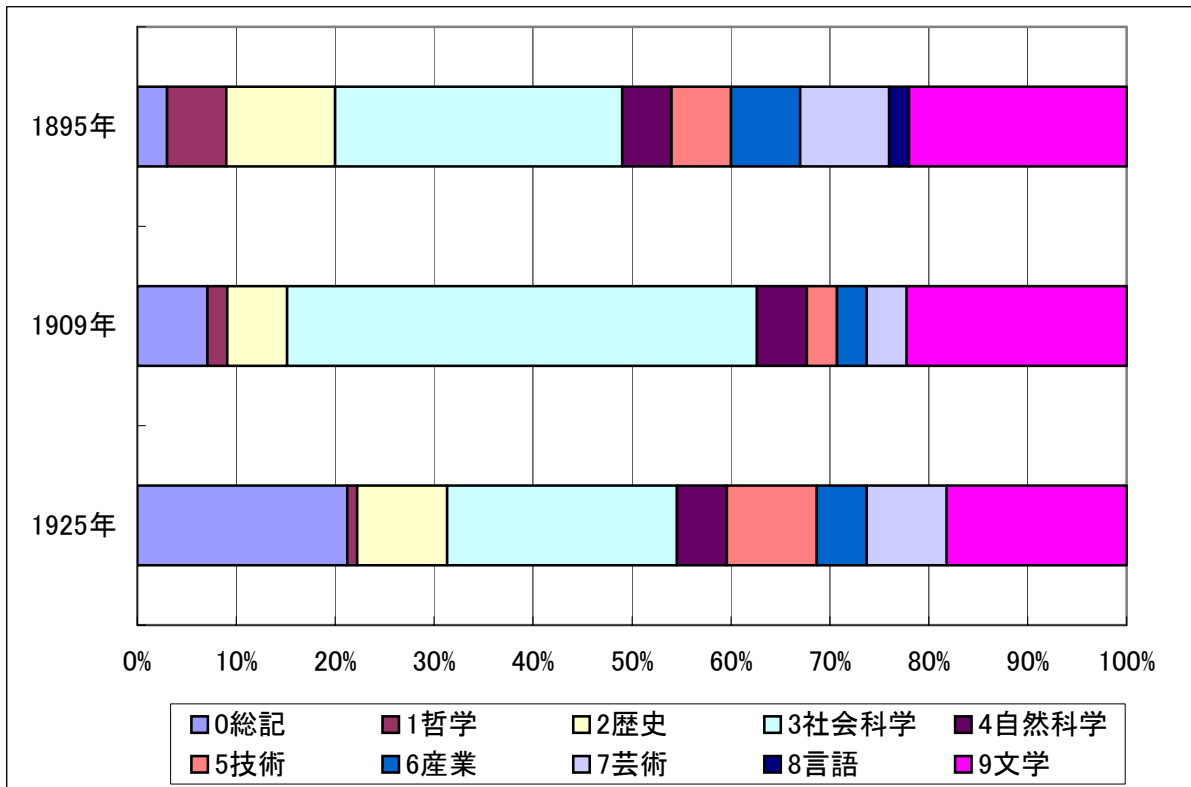


図6 『太陽コーパス』におけるジャンル分布（記事数による）

### 3.3 文体の概要

『近代女性雑誌コーパス』では、記事タグに文体属性を付与している。この属性は、文末辞に着目して、記事の基調である文体が、文語体であるか、口語体であるかを認定したものであり、その認定基準は『太陽コーパス』の場合と全く同じである。

この方法により、各年次別に、それぞれの文体に認定された記事の総文字数を算出し、その結果を一覧にすると、表2の通りである。「項目」としたものは、奥付などで、通常の文の形の言語を含まず、文語でも口語でもないものである。「文語」と「口語」の文字数を、積み上げ式の棒グラフにまとめると、図7のようになる。これに対応する『太陽コーパス』のデータをまとめたものを、図8に示す。

表3 『近代女性雑誌コーパス』の文体構成

	文語	口語	項目
1894・1895年	914751	81289	857
1909年	103157	576394	0
1925年	3105	460023	0
全体	1021013	1117706	857

当初はほとんどすべてが文語文であったところから、次第に口語文が優勢になり、1925年にはほとんどすべてが口語文になるという流れは、『近代女性雑誌コーパス』と『太陽コーパス』とで共通している。その流れの中間段階を示す1909年の状況を見ると、若干相違が見られる。『太陽コーパス』に比べて、『近代女性雑誌コーパス』の口語文の比率が、高くなっているのである。

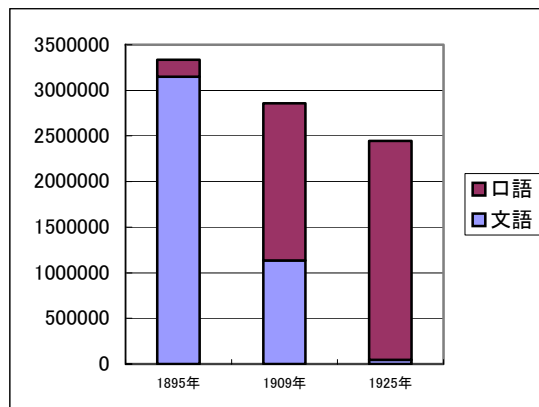
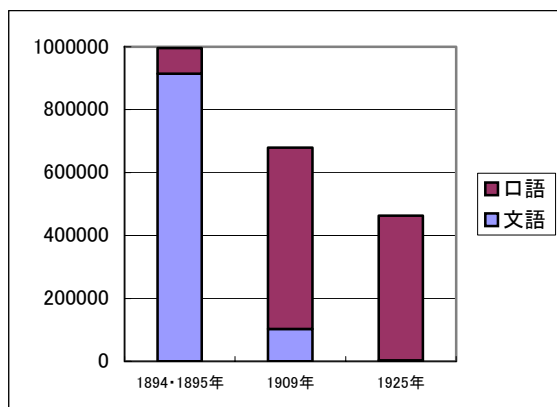


図7 『近代女性雑誌コーパス』における文体構成 図8 『太陽コーパス』における文体構成

#### 4. まとめ

以上、簡略ではあったが、『近代女性雑誌コーパス』の概要を、『太陽コーパス』と比較しつつ述べてきた。『近代女性雑誌コーパス』の特性に留意しつつ、有効に活用していくことが望まれよう。

『近代女性雑誌コーパス』は、2006年の6月までには公開する予定で、準備を進めている。公開にかかわる情報は、国立国語研究所のwebページ「言語データベースとソフトウェア」(<http://www.kokken.go.jp/lrc/>)で公表していく予定である。

#### 参考文献

- 国立国語研究所 (2005 a) 『太陽コーパス—雑誌「太陽」日本語データベース—』 (博文館新社)
- 国立国語研究所 (2005 b) 『雑誌「太陽」による確立期現代語の研究—「太陽コーパス」研究論文集—』 (博文館新社)
- 国立国語研究所国語辞典編集準備室 (1983) 『用例採集のための主要雑誌目録』 (国立国語研究所, 白表紙)
- 田中牧郎 (2005) 「言語資料としての雑誌『太陽』の考察と『太陽コーパス』の設計」 (国立国語研究所 2005b 所収)
- 永嶺重敏 (1997) 「戦前の女性読書調査」 (『雑誌と読者の近代』 日本エディタースクール出版部 所収)